

令和6年度

事業報告書



社会福祉法人富士市社会福祉協議会

目次

1. 概要.....	1
2. 会議開催状況.....	3
3. 事業実施状況.....	7
【広報啓発事業】	7
【地域福祉推進事業】	9
【生活支援体制整備事業】	12
【ボランティア活動育成事業】	13
【重層的支援体制整備事業】	17
【福祉相談事業】	18
【援護事業】	19
【共同募金運動】	21
【ユニバーサル就労支援センター相談支援グループ運営事業】	22
【貸付事業】	22
【日常生活自立支援事業】	23
【成年後見支援センター事業】	23
【法人後見事業】	25
【介護サービス事業】	25
【障害サービス事業】	26
【社会福祉センターの運営】	28
【生きがいデイ・健康づくりデイサービス事業】	28
【その他の事業】	29
【社協会費・寄附金の募集】	30

1. 概要

令和6年度は、令和6年1月1日に発生した能登半島地震の衝撃も残る中、その後も地震や豪雨による自然災害、また記録的な猛暑など、地球温暖化の影響を強く感じさせる出来事が続きました。特に被害の大きかった能登半島地震について本会としましては、4月以降も石川県能登町へ職員派遣するとともに、9月に再び能登半島を襲った能登半島豪雨災害に対しても職員を派遣し、被災地の復興支援にあたりました。

事業面に関しては、本年度が中間年度となる「第5次地域福祉活動計画」について計画の進捗状況の点検・評価を行いました。

以下、令和6年度事業計画における重点目標を中心に事業執行状況を報告いたします。

＜令和6年度の重点目標＞

1. 重層的支援体制整備事業と連動したコミュニティソーシャルワークの実践
2. 生活支援体制整備事業の推進と関係機関との連携
3. 鷹身工芸社の移転新築と障害サービス事業所の計画的な施設整備
4. 職員の確保と定着のための採用・育成力の強化

1. 重層的支援体制整備事業と連動したコミュニティソーシャルワークの実践

重層的支援体制整備事業に関しては、市より多機関協働事業を受託しておりましたが、市では事業の方向性を検討しつつ取り組みを進めていく中で、重層的支援体制整備事業の中核となる多機関協働事業について、次年度は行政の直営で実施するという形で方針を変更することとなり単年度で受託が終了することとなりました。地域におけるコミュニティソーシャルワークの実践については、寄せられる相談に応じて関係各機関と連携を図りつつ、それぞれの相談ごとや困りごとに対応しました。また、対応する案件の内容に応じて、保健・医療・福祉等専門分野の垣根を越えて役割分担を図り、相談者に寄り添うコミュニティソーシャルワーカーとして、そして困りごとの解決に向けた支援チームの一員として活動に取り組みました。

2. 生活支援体制整備事業の推進と関係機関との連携

住民主体による支えあいの地域づくりを進める取り組みについては、各地区に配置されている第2層生活支援コーディネーターとコミュニティソーシャルワーカーが連携を取り、それぞれの地区において、話し合いの場づくりや具体的な実践に関する支援を進めました。

また、地域住民および各種組織への働きかけや取り組みの結果として、その地区の実情に応じた方法による支えあいの仕組みが完成し、複数の地区において具体的な活動として展開されました。

3. 鷹身工芸社の移転新築と障害サービス事業所の計画的な施設整備

鷹身工芸社の移転先として、現在地の南東に用地を購入。7月に行った入札の結果、株式会社井上建設が落札し、令和7年5月の完成に向け、順調に工事を進めてきました。

今回は、国・県の補助金なしでの建設となったこともあり、障害サービス室のこれまでの積立金を大幅に取り崩すこととなりました。

他の事業所に関しても、建物の老朽化、利用者・家族の高齢化、職員確保の困難さなど、さまざまな課題を抱えており、法人として、経営状況の分析をしながら、持続可能な施設運営について検討してきました。なお、令和7年度からはワーキンググループをスタートさせ、長期展望に立った整備・再編方針を打ち出してまいります。

4. 職員の確保と定着のための採用・育成力の強化

採用環境がますます厳しさを増す中、本会の社会福祉事業の担い手たる正規職員の確保については、ラジオfでの呼びかけや就職説明会への参加、職場見学会の開催などの新たな施策を実施し、障害福祉サービス支援員4人の令和7年度採用に結びつけることができました。また、職員の定着のための取り組みについては介護・障害事業の職員処遇改善加算等の財源も活用しながら適切な給料のベースアップを行いました。

さらに、経験年数の浅い職員の早期戦力化と中堅職員育成力の強化を図るためのOJT（職場内訓練）リーダーに対する研修を引き続き実施するとともに、次年度からの新たな職員育成計画を策定するなど、育成力向上のための取り組みを行いました。

その他、重点目標以外については、予想される大規模災害に備えて、昨年度に引き続き被災者支援ネットワーク会議を開催し、多様な特技や強みを持った団体同士がつながり合い災害時に円滑な連携ができるよう、行政や市民活動団体等と平時から顔の見える関係づくりに努めました。

また、医療・介護・障害福祉の3つの報酬制度が同時に改定となった6年に1度のいわゆる「トリプル改定」に対しては、一本化された処遇改選加算の取得や、障害者就労継続支援B型事業所における「6対1」の人員配置算定等、事業の経営安定化のための取り組みを行いました。

さらに、指定管理期間が1年間延長となった富士市社会福祉センター広見荘については、令和7年3月31日をもって閉館が決まったことから、最終日の3月30日に「ありがとうサヨナラ広見荘」と題したイベントを開催し利用者とともに53年の歴史に幕を下ろしました。

以上、令和6年度は長引く物価高騰や人材不足等で厳しい状況下ではありましたが、計画した事業については概ね順調な事業執行となりました。

2. 会議開催状況

1. 理事会

	場 所	会 議 事 項
第 1 回 R6. 6. 10	フィナンセ東館 ボランティアルーム	議第 1 号 令和 5 年度事業報告について 議第 2 号 令和 5 年度決算について (監事監査報告) 議第 3 号 令和 6 年度補正予算について (第 1 号) 議第 4 号 社会福祉法人富士市社会福祉協議会職員給与規程等の一部改正について 議第 5 号 役員選任候補者の推薦について 議第 6 号 定時評議員会の招集について ○社会福祉協議会会費依頼について
第 2 回 R6. 8. 27	フィナンセ東館 ふくし体験・学習室	報第 1 号 会長及び常務理事職務執行状況報告 議第 7 号 令和 6 年度富士市社会福祉協議会会長表彰及び感謝状贈呈候補者について 議第 8 号 評議員選任候補者の推薦について 議第 9 号 評議員選任委員会の招集について ○電子メールによる理事会招集について ○鷹身工芸社移転新築工事の進捗状況について ○社会福祉協議会会費収納状況について (中間報告) ○令和 7 年度採用 正規職員の募集について
第 3 回 R6. 11. 22	フィナンセ東館 ボランティアルーム	議第10号 令和 6 年度補正予算について (第 2 号) 議第11号 役員選任候補者の推薦について 議第12号 評議員会の招集について ○令和 6 年度歳末たすけあい運動について ○令和 7 年度採用 正規職員の募集について ○社会福祉協議会会費収納状況について ○赤い羽根共同募金収納状況について (中間報告)
第 4 回 R7. 1. 24	フィナンセ東館 ボランティアルーム	報第 2 号 会長及び常務理事職務執行状況報告 議第13号 小口資金貸付事業貸付金の欠損処分について ○第 5 次地域福祉活動計画の中間検証について ○歳末たすけあい運動募金収納状況及び配分結果について

第5回 R7. 3. 19	フィナンセ東館 ボランティアルーム	議第14号 社会福祉法人富士市社会福祉協議会組織規程の一部改正について 議第15号 社会福祉法人富士市社会福祉協議会職員給与規程の一部改正について 議第16号 社会福祉法人富士市社会福祉協議会介護サービス室及び障害サービス室職員給与規程の一部改正について 議第17号 社会福祉法人富士市社会福祉協議会職員就業規則の一部改正について 議第18号 社会福祉法人富士市社会福祉協議会職員の育児・介護休業等に関する規則の一部改正について 議第19号 社会福祉法人富士市社会福祉協議会経理規程の一部改正について 議第20号 令和6年度補正予算について（第3号） 議第21号 令和7年度事業計画について 議第22号 令和7年度予算について 議第23号 令和7年度役員等賠償責任保険契約の締結について 議第24号 評議員会の招集について
------------------	----------------------	--

2. 評議員会

	場 所	会 議 事 項
定時 (第1回) R6. 6. 25	フィナンセ東館 ボランティアルーム	議第1号 令和5年度事業報告について 議第2号 令和5年度決算について (監事監査報告) 議第3号 令和6年度補正予算について（第1号） 議第4号 役員の選任について ○社会福祉協議会会費依頼について ○ボランティアセンターの活動実践報告について
第2回 R6. 12. 13	フィナンセ東館 ボランティアルーム	議第5号 令和6年度補正予算について（第2号） 議第6号 役員の選任について ○令和7年度採用正規職員の採用試験結果について ○社会福祉協議会会費収納状況について ○赤い羽根共同募金収納状況について（中間報告）

第3回 R7. 3. 27	フィナンセ東館 ボランティアルーム	○令和6年度歳末たすけあい運動について ○鷹身工芸社移転新築工事の進捗状況について 議第7号 令和6年度補正予算について（第3号） 議第8号 令和7年度事業計画について 議第9号 令和7年度予算について ○第5次地域福祉活動計画の中間検証について
------------------	----------------------	--

3. 評議員選任委員会

	場 所	会 議 事 項
R6. 9. 10	フィナンセ東館 社協相談室	議第1号 評議員の選任について

4. 監 査

	場 所	会 議 事 項
R6. 5. 29	フィナンセ東館 社協相談室	○令和5年度決算会計及び業務監査

5. 共同募金委員会

	場 所	会 議 事 項
R6. 8. 27	フィナンセ東館 ボランティアルーム	○令和6年度赤い羽根募金実施計画について ○令和6年度歳末たすけあい運動実施計画について ○街頭募金について

6. 正副会長会

	場 所	会 議 事 項
第1回 R6. 6. 5	フィナンセ東館 社協相談室	○第1回理事会について ○6月以降の会議日程について
第2回 R6. 8. 20	フィナンセ東館 社協相談室	○第2回理事会及び共同募金委員会について ○8月以降の会議日程について

第3回 R6. 11. 18	フィナンセ東館 社協相談室	○第3回理事会について ○11月以降の会議等日程について
第4回 R7. 1. 21	フィナンセ東館 社協相談室	○第4回理事会について ○2月以降の会議等日程について
第5回 R7. 3. 13	フィナンセ東館 社協相談室	○第5回理事会について ○4月以降の会議等日程について

3. 事業実施状況

【広報啓発事業】

(1) 富士市社会福祉大会

社会福祉功労者に対し、表彰状及び感謝状の授与式をロゼシアターで開催した。

- ・開催日 11月26日(火)
- ・開催場所 ロゼシアター 中ホール
- ・内容 表彰式 被表彰者等 56人
活動発表 「広見地区の支え合い活動について」



(2) 社協の広報活動

市民に広く社協への理解をいただくため、また、事業等で社協を活用していただくため、全戸に広報紙「お元気ですか」を配布すると共に、ウェブサイトの充実を図り、さらに市内のコミュニティーエフエム（ラジオエフ）の放送に社協役職員やボランティアが出演、また、社協への寄附や事業実施時等に報道メディアへの情報提供を積極的に実施するなど、様々な広報啓発活動を行った。

①広報紙『お元気ですか』の発行

会員である市民に対し、読みやすく分かりやすい福祉情報を発信すると共に、社協への理解を高めるために年3回発行した。併せて間違いさがしのコーナーへの応募時に福祉に関するアンケートに答えていただき、市民の福祉に関する実情や動向の把握に努めた。

- ・6／1号 地域のためにできることがある
～「地域」とつながる学生ボランティア～ 他
※読者アンケート「あなたは、自分が暮らす地域を住みやすいと思っていますか？」 回答数508通
- ・10／1号 「生きがい」や「夢」につながるきっかけに！
～ボランティアの先にあるもの～ 他
※読者アンケート「あなたは、ボランティアに興味がありますか？」 回答数329通

- ・新 年 号 高齢者を地域全体で見守りたい
～「さりげなく見守る」支えあい活動～ 他
※読者アンケート「あなたは、地域の支えあいの活動に参加
したいと思いますか？」 回答数 6 3 3 通

広告協賛企業（敬称略）

小松クリニック（医療法人社団青葉会）	3 回
アイアール社会保険労務士法人	3 回

②ラジオエフの活用

月 1 回（最終水曜日）放送の「はあとふるトーク」に役職員、地域住民、ボランティア等が年間 1 2 回出演し、社協事業の P R に努めた。また、災害時の連携を視野に入れた防災パートナーズポット CM を毎月 1 回実施。その他、随時社協事業の広報媒体として協力を求め活用をした。

③ウェブサイトの充実

I C T（情報通信技術）時代に応じた見やすいサイトを追求するとともに、わかりやすい福祉情報の発信に努めた。また、速報性の高い情報に関しては随時更新を行った。

社協ウェブサイト：閲覧されたページ総数 年間 85,309 ページビュー
ユーザーがサイトで操作した総数 年間 45,850 セッション
サイトを訪問したユーザー総数 年間 35,139 ユーザー

④報道メディアへの情報提供を通じた事業等の周知

報道メディアに社協や福祉推進会等の事業及び社協への寄附等の情報を積極的に提供し、紙面や報道を通じて事業等の周知を行った。

（３）富士市障がい者支援ポータルサイト『はっぴいずむ富士』の運営

ノーマライゼーションの理念に基づき、すべての人が交流やふれあいを通じて「福祉の理解」を深めることを目的とした「市民福祉まつり」の理念を踏襲し福祉情報を SNS で「つなげる」新たなポータルサイト『はっぴいずむ富士』を運営した。また、サイトの周知を目的として会議等の場における投げかけや市内で開催されるイベントにおいてブースを設け、イベントの参加者に向けた啓発活動に取り組んだ。

① はっぴいずむ富士の啓発に関する取り組み

- ・日時：5 月 1 8 日（土）
会場：医療・介護・福祉の“わ”
内容：体験型ワークショップ、ポータルサイト啓発等
- ・日時：5 月 2 6 日（日）
会場：広見福祉フェスティバル
内容：ポータルサイト啓発、各種団体体験ブース等

②はっぴいずむ富士ポータルサイトの運営について

各記事数 ※累積

ニ ュ ー ス	99件
ギ ャ ラ リ ー	28件
商 品 紹 介	12件
支 援 事 業 者	47件
総 ペ ー ジ 閲 覧 数	17,998件
サイトを訪れた人数	5,803人

【地域福祉推進事業】

(1) 地区福祉推進会

①地区福祉推進会の活動支援

「だれもが住みなれた地域で、いつまでも安心して暮らすことのできる福祉のまちづくり」を目指し、市内26地区に地区担当職員（コミュニティソーシャルワーカー）を配置し、その地区に必要な資源開発・育成を行い、支え合い助け合いのまちづくりを地域住民の皆さんと共に実施した。また、各地区の実情に合わせ地区内の関係団体等と連携・協働し事業活動を実施した。

②地区福祉推進会連絡会の活動支援

各地区福祉推進会の事業活性化のため、各地区で実施されている活動について情報収集と各地区への発信を行った。また、コロナ禍の状況下でも工夫しながら開催しているサロン等の情報提供をし、各地域でのつながりづくりを推進した。

<正副会長会議>

5月28日（火） 地区福祉推進会連絡会の開催について
役員の改選について

7月30日（火） 外部委員の就任について
地区福祉推進会としての取り組みについて

12月19日（木） 生活支援体制整備事業の今後の見通しについて
各地区福祉推進会における助成金の執行状況について

<全体事業>

6月25日（火） 富士市地区福祉推進会連絡会
事業報告及び事業計画
コミュニティソーシャルワークの実践について
地区版第5次地域福祉活動計画の中間検証について

③見守り・生活支援活動の実施（小地域福祉ネットワーク事業）

各地区及び各地域の中で、要援護者に対し見守り活動を展開し安否を確認した。

- ＜富士南地区＞ 小中学生を見守るあいさつ運動を実施
- ＜吉永地区＞ 近隣の方（ひとこえ会）が日常的な安否確認を実施
- ＜富士駅南地区＞ 住民福祉ネットワークで高齢者宅を誕生月等に訪問
「地域支え合いマップ」の作成
- ＜富士駅北地区＞ 近隣の方（見守り協力者）が日常的な安否確認を実施
- ＜大淵地区＞ 回覧版を手渡しで行い、安否確認を実施
生活上の困りごと対応
- ＜原田地区＞ 地区民生委員と推進会委員で見守りが必要な世帯を訪問
その後は、推進会会員による見守りを実施

（２）ふれあい・いきいきサロンの推進

ふれあい・いきいきサロンは、日常生活の基盤である地域社会における高齢者や障がい者等の孤独感の解消並びに介護予防を目的とした取り組み。地域住民が自主的・自発的に取り組めるよう、地域におけるふれあいと見守りの場である「居場所」の実現に向けて支援した。

- ・対 象 地域との交流を求める高齢者・障がい者等
- ・利用料 無料
- ・開設数 １５０カ所 （３月３１日現在、休止中を除く）

（３）こども食堂への補助

こどもたちが放課後等に食事や学習、地域交流を通じて安心して過ごせる居場所であるこども食堂への支援を実施した。７件の助成金の申請があり助成を実施。こども食堂への関わりを通じてこどもを孤立させない地域づくりを支援した。

- ・助成件数 ７団体
- ・助成額 ４１０，０００円

（４）未就園児等安否確認支援事業

こども家庭課が行う未就園児等の家庭（富士市に在住する未就園児等のいる世帯で、こども家庭課が訪問する必要があると判断した世帯）訪問の際に、障害者就労支援事業所の製品を提供することで、児童の安否確認及び生活課題の早期発見が円滑に行えるよう支援することを目的に実施。

- ・５月～１２月 ラスク１６０個、クッキー１６０個を提供

(5) さわやかコール事業

ひとり暮らし高齢者の安否確認を目的に、民生委員児童委員を通じて申し込みを行い、配達員がひと声かけながら乳酸菌飲料（ヤクルト）を宅配するサービスを実施。声かけ時に応答がないなど安否が確認できなかった際には、担当の民生委員児童委員や緊急連絡先等に確認をしたほか、必要に応じて職員が訪問し安否確認を行った。

- ・委託先 中央静岡ヤクルト販売㈱
- ・訪問日 最大で週3回
- ・月平均 441人

(6) 地域活動団体への助成

- ・地域福祉活動費（町内会）助成 2,681,400円
- ・民生委員児童委員活動実費弁償費助成 439,000円
- ・民生委員児童委員協議会活動費助成 300,000円
- ・人権擁護委員会助成 70,000円

(7) コミュニティソーシャルワークの実践

日常のあらゆる困りごとや相談に応じ、個別支援と地域支援を統合的に展開するコミュニティソーシャルワークの具体的な実践のため、地区担当者を支援し共に活動に取り組む圏域担当を配置。地区担当者と情報共有を図りながら相談対応や支援に取り組んだ。また支援にあたっては、市内の各機関や専門職と連携し、チームアプローチでの支援を実践した。

- ・相談対応件数 84件

相談内容の内訳（複数回答）

相談内容	件数	相談内容	件数
孤立	23	メンタル	4
高齢者（見守り）	20	子ども	3
ボランティア	12	就労	2
障がい	12	地域づくり	2
地域トラブル	9	家族関係	1
困窮	8	財産管理	1
高齢者（介護）	5	その他	6
高齢者（認知）	4		

(8) 生活困窮世帯学習支援応援事業

生活支援課が実施する「富士市こどもの学習・生活支援事業」で行う企画イベントを通じて参加者に食品や物品を支給することにより、こどもの学習意欲の向上を図ることを目的に実施。

- ・学習支援受講者応援 2月26日(水) 47人参加

バスボム、富士山バスボム(ふじひろみ)、ガーゼハンカチ(吉原つくし)、焼き菓子、抹茶クッキー(まつぼっくり)を提供

(9) 第5次地域福祉活動計画の中間検証

福祉のまちづくりに向けての活動を明確にし、その推進に取り組むための実践計画として策定した富士市社会福祉協議会第5次地域福祉活動計画について、中間検証を実施した。

【生活支援体制整備事業】

(1) 第1層生活支援コーディネーター業務の推進

生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的に、富士市より※第1層コーディネーター業務を受託し、市全域で支え合い・助け合い活動が広がるよう基盤整備と関係機関ネットワークの構築などを行った。また、介護保険事業に従事する専門職への理解を促す場として生活支援体制整備事業専門職研修会を開催した。

- ・第1層協議体会議

3月11日(火) 富士市で始まっている支えあい活動の報告
○ゴミ出し支援について
○移動支援について

- ・生活支援コーディネーター連絡会

6月26日(水) 第2層生活支援コーディネーターの活動について
各地区情報共有

12月11日(水) まちづくり協議会について
生活支援コーディネーター情報共有

- ・専門職研修会

3月 6日(木) 市内の介護保険事業に従事する専門職を対象に開催
講師：全国コミュニティライフサポートセンター

理事長 池田昌弘 氏

※第1層生活支援コーディネーターとは、富士市域全域の福祉活動団体を組織化し、支援を必要としている人への働きかけや、助け合い組織立ち上げ支援、行

政への働きかけ、施策提言をする者

(2) 地域包括ケア体制の構築に向けた地域支援

生活支援・介護予防に関する地域支援や地域住民主体の支え合い・助け合いがふれるまちづくりのため、※第2層生活支援コーディネーターと協働し各地区担当職員も地域資源の育成・活動支援を行った。

- ・各地区地域ケア会議、個別ケア会議への参加

※第2層生活支援コーディネーターとは、小学校区を単位として、生活支援のニーズ把握や社会資源の把握、サービスの開発を地域住民と共に取り組む者

(3) 支えあいのまちづくり活動補助金（生活支援活動スタートアップ助成金）の実施

地域住民による生活支援活動を支援し、地域共生社会を実現させるための取り組みとして、支えあいのまちづくり活動補助金により、地域住民による生活支援活動の立ち上げに対する支援を実施した。

【ボランティア活動育成事業】

(1) ボランティアセンター運営事業

ボランティアセンター利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年
開館日	28	26	29	29	31	30	29	26	27	26	24	29	334	333
利用者数	457	413	430	339	295	433	380	422	361	250	348	422	4,550	5,007
1日平均	16.3	15.9	14.8	11.7	9.5	14.4	13.1	16.2	13.4	9.6	14.5	14.6	13.6	15.0

① ボランティアのニーズ調整

- ・ボランティア対応 延べ 269人
- ・個人登録者に対する情報発信 延べ 2,629人

② ボランティア保険

- ・加入者数 2,759人
- ・事故対応 12件

③ 富士市ボランティア連絡会

連絡会は、加入しているボランティアグループで組織し、情報交換をはじめ、ボランティアに関する意見交換を実施した。

- ・奇数月第1金曜日 定例会開催(定例会前に役員会開催)

④ ボランティア団体への助成

- ・ボランティア連絡会助成 300,000円
- ・災害ボランティア連絡会助成 200,000円

(2) 車いす車両貸出事業

車いす使用者に対して、車両を貸出し、社会参加の促進を図った。

・貸出件数 243件

(3) 企業の地域貢献・社会貢献活動への協力

富士市内外の事業所による地域貢献・社会貢献活動の推進に対して連携及び協力を図るため、活動に係る連絡や調整を行った。

・対象企業及び事業所 18社

(4) ふじおもちゃ図書館の運営

ハンディキャップのあるなしにかかわらず、おもちゃを通しての交流の場として開館している。

・開館日 火・木曜日 10:00～12:00
日曜日（障がい児のみ） 10:00～12:00
・協力団体 ふじおもちゃ図書館ボランティア 38人
・会場 ふじおもちゃ図書館（富士市フィランセ東館4階）

利用状況

単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年
利用者数	260	279	237	352	461	584	654	304	238	240	252	438	4,299	2,835

＜貸館＞本来はふじおもちゃ図書館閉館時に、障がい児（者）及び子育てグループ等の団体に託児や交流のスペースとして貸館を行っている。

(5) 富士市災害ボランティア連絡会

災害時におけるボランティア活動がスムーズに行えることを目的に、災害ボランティア連絡会を組織し、定例会での情報交換をはじめ研修や災害ボランティア講習会を実施した。

・加入団体 11団体
富士市災害救援バイク隊『ペガサス』
富士市アマチュア無線非常通信協力会
災害ボランティアコーディネーター富士
静岡県市町村職員年金者連盟富士市支部
富士市ボランティア連絡会
静岡県看護協会富士地区支部
富士R B

富士市まとい会

家具やしめ隊

富士市赤十字奉仕団

災害ボランティアコーディネーター富士川

- ・災害ボランティアセンター開設訓練（研修）

1月11日 午前の部 富士市被災者支援ネットワーク会議

午後の部 災害ボランティアセンター運営訓練

（６）声の広報事業

ボランティアグループの協力により、月１回発行される「広報ふじ」やその他「警察だより」「中央病院、蒲原病院だより」「消防署だより」「市議会だより」「お元気ですか」「暮らしの情報」等をＣＤに吹き込み作成し視覚障がい者に郵送により情報提供した。

・利用者 １７人

・協力団体 ３団体（やまびこ５月号、すみれ、Ｃ３ＰＯ）

（７）ボランティア講座

「ボランティア講座～おっとここはワタシの出番だ講座 ボランティアをする前に聴いておきたい９０分の話～」

本講座では、これからボランティア活動を考えている方や、しばらく活動から遠ざかっている方、現在ボランティア活動をされている方を含め、今後のボランティア活動に新たなつながりや広がりを持つことを目的に開催した。 ８４人参加

開催日 ３月１日（土）

会 場 フィランセ西館４階大ホール

内 容 講座を通してボランティアをこれまで以上に身近に感じてもらい
講座参加者同士が講座を通して楽しみながら繋がるため、講座内の
「遊び」を体験しながら、ボランティアが相談できる相手としてボラ
ンティアコーディネーターを紹介した。

講 師 遊びの工房もくもく屋 事務局長 田川雅規 氏

（８）福祉教育の推進

①福祉人材育成事業

これからの福祉事業に携わる人材の定着及び確保を目指し、広く福祉に関する啓発を行うための福祉人材育成事業に取り組んだ。

<実行委員会>

- ・内 容 本会と市内の各関係機関との連携及び協働による事業計画立案のための実行委員会を設置し、実施内容の検討を行った。
- ・開催日 5月27日（月）・11月19日（火）
- ・委員数 9人

<つながろうプロジェクト実行委員会>

- ・開催日 7月16日、8月20日、9月17日、10月15日、
11月19日、12月17日、1月21日、2月18日、
3月18日（いずれも火曜日）
- ・会 場 フィランセ東館3階ボランティアルーム
- ・内 容 つながろうプロジェクト事業開催に向けての計画と実践
- ・アドバイザー 社労士オフィスろーど 代表 大道和哉 氏
㈱フロンティアワーク 代表 佐々木 恵 氏
- ・対象者 市内の福祉施設等に勤務する職員 12人

<つながろうプロジェクト事業>

（ア）ショート動画製作

- ・内 容 富士市の福祉の魅力を若い世代（高校生他）に伝えるため、
SNSのショート動画を製作し、広く発信を行った。

（イ）ビュッフェスティバル&フォトコンテスト

- ・開催日 令和7年3月8日（土）
- ・会 場 富士酸素工業㈱内カフェスペース
- ・内 容 ビュッフェスティバル、フォトコンテスト最終選考会
福祉の現場で働く方をはじめ、福祉に関心のある一般の方や学生が
スイーツを食べながら福祉の魅力を語り合うワークショップを実施。
また、「だもんで、ふふふ」フォトコンテストと銘打ち、福祉の職
場で見つけた“素敵な笑顔”の写真を公募し、ふふふ大賞、ふふふ
賞、優秀賞を表彰した。
- ・参加者 市内の福祉施設等に勤務する職員及び一般参加者 64人

② 夏休み福祉なんでも学習

福祉を学ぶ大学生とともに、災害時に備え、キャンプ用簡易ベッドや段ボールベッドなど、6つの方法で横になってみる体験の他、実際に段ボールベッドを手作りして使用方法を確認した。 26人参加

③ 福祉教育（体験、福祉講話）の実施

福祉教育を積極的に推進するため、学校単位・クラス単位等必要に応じ体験学習や福祉に関する講話・相談等を行った。

- ・4校 市内小中学校および高等学校にて

④福祉体験機材の貸出

福祉の心を育むための体験用として疑似体験機材を貸し出した。

	車いす	アイマスク ・白杖	アイマスク	高齢者 疑似	点字盤	自助具 (スプーン ・箸等)	ボッチャ・ ユニボッチャ	サッカー ボール	触感体 験など その他
個数	1 0 2	7 7	1 5	2 3 4	1 6 5	1 3	5 4	0	1 9 1
回数	2 3	9	4	3 1	1 1	4	3 8	0	8 5

内訳	学 校	1 8
	地 区	4 5
	施 設	2 3
	その他	6 8

⑤福祉図書コーナーの運営

フィランセ東館3階市民交流フロアに福祉図書コーナーを置き、図書等の貸出を行った。

- ・図書等の貸出

福祉図書 1 0 冊 ビデオ・DVD 1 0 件

- ・貸出利用券新規発行者数 3 人

【重層的支援体制整備事業】

市内の複数の課題を抱え、支援が滞る等具体的な支援が進まないケースに対し、市関係部署等により構成された支援会議や支援調整会議によって情報共有および支援方法を検討した。その上で支援における各支援関係機関の役割分担や取り組みの期間を設定し、その後のモニタリングやモニタリングを踏まえての支援内容の再検討など、継続的に支援の方向性の整理や役割分担をはじめとした事例全体の調整を通じて支援者を支援する役割を担った。

多機関協働事業(市の方針変更により、本年度のみの事業となった)

- ・支援（調整）会議開催回数 1 1 回
- ・取り上げた事例 6 例
- ・事例検討（情報共有）延べ件数 1 6 件

【福祉相談事業】

(1) 結婚相談

結婚相談員による結婚に関する相談及び交際の仲立ち（引き合わせ）を行った。

・開所日 毎週水曜日、毎月第1・第3土曜日、第2・第4日曜日

・相談状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年
開催日数	8	8	8	9	6	7	9	8	8	7	7	8	93	93
相談件数	142	133	162	171	93	73	100	91	139	94	86	135	1,419	1,678

・新規登録者数 45人（前年63人）

・引き合わせ組数 53組（前年65組）

・引き合わせ成立組数 29組（前年35組）

・結婚成立件数 1組（前年4組）

(2) 心配ごと相談

フィナンセ東館1階事務局内にて相談員1人を配置。月曜日から金曜日まで、福祉・生活に関わる初期相談に応じ、直接来所できない方のためには電話相談（64-3294）を行った。さらに専門的な相談に対しては関係機関と連携を密にしながら対応した。

<相談状況>

相談件数 291件

<内訳> 来所相談 11件 電話相談 280件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年
相談件数	8	16	25	17	17	24	42	27	22	23	41	29	291	139

相談内容	件数	前年
福祉制度等の利用相談	1	3
福祉サービス等の利用相談	0	0
自立生活についての相談	19	5
家庭生活についての相談	51	42
教育に関する相談	0	5
就労に関する相談	12	10
医療・健康に関する相談	54	3
虐待に関する相談	1	1
その他	153	70

合 計	2 9 1	1 3 9
-----	-------	-------

※

重複回答あり

【援護事業】

（１）罹災世帯援護事業

火災に遭われた罹災世帯に対し見舞い金を支給した。

・全焼 8件 240,000円

（２）緊急一時援護事業

低所得世帯等で、緊急に援助を要する世帯に対し、世帯の自立更生に繋がるよう5万円を限度に援護を行った。

・生活援護 3件 58,000円

（３）児童援護事業

・低所得世帯小中学校入学支度費支給 1,448,000円
・低所得世帯小中学校修学旅行支度費支給 2,548,000円
・児童遊び場設置費助成 294,000円

<児童福祉団体への助成>

・子ども会世話人連絡協議会助成 300,000円

（４）障害者援護事業

①福祉機器等リサイクル事業

高齢者などの在宅生活の支援、社会参加の促進、家庭介護の軽減を図ることを目的に、不用となった福祉機器やベビー用品を無償で提供していただける方と譲り受けた方とのリサイクル情報の橋渡しを行った。

・対 象 不用になった福祉機器やベビー用品を譲りたい方
不用になった福祉機器やベビー用品を必要とする方
・費 用 無料（運搬・修理に関する費用は譲り受ける方が負担）
・物 品 福祉機器・介護用品・ベビー用品
（直接身体に触れる物品は未使用のもの）
・実 績 譲ります情報 40件 求めます情報 50件 成立 39件

②車いす短期貸出事業

病気やケガ及び旅行等、短期間（2週間）車いすを必要とする方へ貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年
貸出件数	34	33	20	22	32	20	23	29	34	32	21	20	320	311

③障がい者福祉団体への助成

・手をつなぐ育成会運営助成	300,000円
・身体障害者福祉会運営助成	200,000円
・視覚障害者福祉会運営助成	50,000円
・聴覚障害者協会運営助成	70,000円
・福祉団体スポーツレクリエーション大会助成	30,000円

(5) 高齢者援護事業

高齢者福祉団体への助成

・悠容クラブ連合会助成	200,000円
・認知症の人と家族の会助成	100,000円
・在宅介護者家族の会助成	50,000円

(6) ひとり親等援護事業

ひとり親世帯等生活困窮者自立支援給付事業

生活困窮者自立相談支援事業において、ひとり親世帯等に対して就労支援を行うのに伴い、就労支援の実効性を高めることや生活を維持することを目的に、就労活動に必要な資金及び子どもの養育に必要な資金等の給付を行った。

・給付	1件	20,000円
-----	----	---------

(7) 交通遺児等援護事業

・交通遺児等入学祝金	10,000円
------------	---------

【共同募金運動】

（１）赤い羽根共同募金運動

この運動は、毎年多くのボランティアの方々に支えられ、本年度は次のとおり募金をいただいた。これらの募金は、民間社会福祉事業の充実向上、健康で安心して暮らせる福祉のまちづくりのための事業に活用されている。

・実施期間 １０月１日 ～ １２月３１日

・協力団体 町内会（区長会）、民生委員児童委員協議会、他諸団体

区 分	目 標 額	実 績 額
町内募金	１４，９００，０００円	１４，５７９，２８５円
篤志・法人募金	４，８３０，０００円	４，３６３，０４４円
街頭募金他	１，７５０，０００円	１，８７０，１３５円
合 計	２１，４８０，０００円	２０，８１２，４６４円

(前年同期 ２０，８９４，２７９円)

（２）歳末たすけあい運動

赤い羽根共同募金運動の一環として「つながり ささえあう みんなの地域づくり」をスローガンに、主に低所得世帯等が安心して新年を迎えることができるよう支援金の配分を行った。

<配分結果>

・低所得世帯（生活保護世帯は除く）

５０２世帯 １，３３８人 ７，８６４，０００円

ねたきり １４人 認知症 ３人

重症心身障がい児(者) ３１人 両親のいない児童 ８人

・福祉施設利用者

施設 ６カ所 里親 ９世帯 計 ６０人 ４３０，０００円

合 計 ８，２９４，０００円

<募金結果>

・会社職域関係 ４８７，５７２円

・団体関係 ２２５，５８７円

・学校関係 ５，１９７円

・個人 ３９，０１８円

・たすけあい袋 ７，７３９，４３１円

合 計 ８，４９６，８０５円

【ユニバーサル就労支援センター相談支援グループ運営事業】

生活課題を抱えた市民からの相談に早期かつ包括的に応ずるユニバーサル就労支援センター相談支援グループを(株)東海道シグマと共同事業体を組織し運営を行った。8人の相談員を配置し相談者の抱えている課題を適切に評価・分析し、その結果を踏まえた「自立支援計画」を相談者本人と共に作成して、相談者の生活の立て直しに向けた支援をした。また生活福祉資金貸付担当者と連携しながら相談を受け、必要な場合は適切に関係機関へのつなぐとともに、事業の周知に関してはチラシを配布し市民への情報提供を実施。ひきこもり支援では本人が望めば積極的にアウトリーチを行い、情報提供や家族支援に努めた。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規相談件数	106	113	87	113	92	94	100	106	94	112	106	99	1222
プラン作成件数	21	16	11	22	17	13	16	16	18	22	18	21	211
就労支援対象者数	14	8	4	12	7	3	6	9	9	14	10	13	109

【貸付事業】

(1) 高額療養費等資金貸付事業

国保加入者で医療費の支払に困っている方に、高額療養費等資金の貸付を行った。

・貸付	1 1 5 件	1 2, 2 8 3, 0 9 0 円
＜内 訳＞		
1. 高額療養費	4 3 件	1 1, 0 1 6, 5 7 0 円
2. 重度医療費	6 6 件	1, 1 6 0, 9 0 0 円
3. ひとり親家庭等医療費	6 件	1 0 5, 6 2 0 円

(2) 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯等の生活意欲を助長し、その自立更生を図ることを目的に県社協の審査を経て生活福祉資金等の貸付を行った。

・教育支援資金	9 件	4, 8 4 6, 0 0 0 円
・福祉資金（福祉費）	3 件	2 2 7, 0 0 0 円
・福祉資金（緊急小口資金）	7 件	6 8 0, 0 0 0 円
・福祉資金（技能習得費）	1 件	3 6 6, 0 0 0 円
合 計	2 0 件	6, 1 1 9, 0 0 0 円

(3) 小口資金貸付事業

低所得世帯を対象に、一時的に必要な生活資金を5万円を限度に無利子にて貸付け、世帯の自立支援を行った。

・貸付 8件 280,000円

行政と連携し、新たに決定した生活保護世帯に対し生活保護費初回支給日までの生活費等の資金を5万円を限度に無利子にて貸付、切れ目のない支援を行った。

・貸付 72件 2,120,000円

【日常生活自立支援事業】

住み慣れた地域で安心して暮らせるように、福祉サービス利用の援助や日常生活に必要なお金の出し入れ、福祉サービスの利用料・公共料金などの支払いを支援した。専門員5人 生活支援員17人で対応。

- ・利用対象 認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等で、自身の判断能力に不安のある方
- ・援助内容 福祉サービスに関する情報提供、利用手続きの代行
日常的な金銭管理の支援、重要書類等の預かり

区 分	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計
現利用者数	15	29	21	8	73
今年度契約者数	2	1	3	1	7
相談援助件数	267	484	341	163	1255

【成年後見支援センター事業】

(1) 成年後見推進事業

認知症、知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が十分でない人が成年後見制度を的確に利用できるよう財産管理・契約等の支援を行い、その人の権利を尊重し擁護することにより地域で安心して暮らせるよう、成年後見制度の利用促進を図ることを目的として相談援助を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年
相談件数	24	24	19	21	24	22	18	26	18	24	29	24	273	283

＜成年後見制度講演会・個別相談会＞

- ・開催日 11月9日（土）
- ・会場 市役所消防庁舎7階
- ・内容 認知症で老後の生活が危ない！終活で守る安心の未来」
～老後の安心を確保するための家族信託と任意後見～
講師 司法書士事務所 Link 司法書士 山本真吾 氏
参加者 55人

（２）市民後見推進事業

＜市民後見人の研鑽＞

市民後見人候補者が日常生活自立支援事業生活支援員として活動を行いながら、身上保護及び財産管理の実際を通じて利用者支援に協力いただいた。

センターはその援助を行い候補者のサポートを行った。

＜市民後見人名簿登録者継続研修＞

市民後見人候補者へのフォローアップと資質の向上のための継続研修を開催。

7月12日	市民後見人 活動報告「死後事務について」	15人参加
10月10日	「消費者被害の実情と事例検討」	14人参加
2月 3日	「代理権・同意見・取消権について」	17人参加

＜市民後見人＞

3月末時点で10人の市民後見人が活動している。

＜監督人＞

合計10人の監督人として市民後見活動の支援を行っている。

（３）中核機関事業

＜受任調整会議の開催＞

成年後見制度利用の申立をする方で、親族以外の専門職後見人等を希望される方を対象に受任調整会議を開催し、その方にふさわしい後見人が選任されるよう弁護士・司法書士・社会福祉士による推薦会議を実施した。その検討結果を静岡家庭裁判所富士支部に推薦した。

9回開催 専門職21人を推薦した。

内訳	弁護士	5件、司法書士	5件
	社会福祉士	8件、法人	2件、
	市民後見人	1件	

＜権利擁護支援会議の開催＞

成年後見制度の申立に関係なく、生活課題のある個人・世帯が抱える複雑化した多問題に対し、法律・福祉専門職による相談や解決策を関係者とともに協議した。

3 回開催

【法人後見事業】

＜法人後見受任＞

家庭裁判所・行政と協議を行い、市民後見個人受任を見据えた 4 件を新たに法人後見として受任した。3 月末時点で 18 件を受任している。

【介護サービス事業】

（１）介護保険関連事業

①居宅介護支援事業

・利用者延べ人数 3,284 人

（事業対象者…153 人 要支援…914 人 要介護…2,217 人）

・利用者内訳 事業対象者…153 人(4.6%) 要支援 1 …328 人(10.0%)
要支援 2 … 586 人(17.8%) 要介護 1 …798 人(24.3%)
要介護 2 … 716 人(21.8%) 要介護 3 …308 人(9.4%)
要介護 4 … 271 人(8.3%) 要介護 5 …124 人(3.8%)

・介護認定調査 43 件（富士市…29 件、県内他市町…1 件、県外…13 件）

②訪問介護事業

・利用者訪問延べ回数 3,177 回

（事業対象者…142 回 要支援…450 回 要介護…2,585 回）

・利用者内訳 事業対象者…142 回(4.5%) 要支援 1 … 219 回(6.9%)
要支援 2 … 231 回(7.3%) 要介護 1 … 800 回(25.2%)
要介護 2 … 710 回(22.3%) 要介護 3 … 253 回(7.9%)
要介護 4 … 772 回(24.3%) 要介護 5 … 50 回(1.6%)

③通所介護事業（富士川デイサービスセンター）

・開所日数 310 日

・利用延べ人数 6,816 人

（事業対象者…151 人 要支援…215 人 要介護…6,450 人）

・利用者内訳 事業対象者…151 人(2.2%) 要支援 1 … 82 人(1.2%)
要支援 2 … 133 人(2.0%) 要介護 1 …2,028 人(29.8%)
要介護 2 …3,094 人(45.4%) 要介護 3 … 657 人(9.6%)
要介護 4 … 295 人(4.3%) 要介護 5 … 376 人(5.5%)

（２）障害福祉サービス事業

①居宅介護

・利用者数 26 人

・延派遣回数 2,714 回 ・延派遣時間数 2,779 時間 20 分

② 同行援護

・利用者数 8 人
・延派遣回数 306 回 ・延派遣時間数 500 時間 20 分

③ 移動支援

・利用者数 5 人
・延派遣回数 294 回 ・延派遣時間数 400 時間 45 分

(3) 介護入門研修事業

介護に関心を持つ介護未経験者に対し、介護の基本的知識や技術の習得を通じ、家庭や地域で介護の担い手として活躍できる人材の育成を行った。

参加者 5 人 終了者 5 人

(4) 高齢者地域支援窓口事業（富士駅北地区）

高齢者の身近な相談窓口として、富士駅北地区の高齢者地域支援窓口を受託。来所者向けの相談窓口の設置、移動相談、家庭訪問を実施した。

・見守り件数 10 件 終了者 3 件（介護保険へ移行 2 件）
・相談件数 252 件
・移動相談 27 回 来所者 158 人

【障害サービス事業】

(1) 障害者就労支援事業所等の運営

就労継続支援 B 型事業所 9 か所、生活介護事業所 1 か所を運営。利用者に対し、生産活動や創作的活動の機会を提供し、併せて社会生活の向上につながる支援を行った。

本年度は国の報酬改定があったことから、報酬費（自立支援給付費）の総額は、前年度実績を 730 万円ほど上回った。

・新規利用者＝計 5 人（内訳：高等部から＝1 人、他事業所から＝4 人）
・退所者＝計 4 人（内訳：施設入所による＝1 人、介護保険事業所移行による＝1 人、転居による＝1 人、死去による＝1 人）

< 就労継続支援 B 型事業所（9 事業所） >

・在籍者数 148 人 男性 84 人 女性 64 人
・平均年齢 約 43 歳 最年長 76 歳 最年少 19 歳

事業所名	開設年月日	在籍者数	月平均工賃	主な自主製品等
吉原つくし	S55. 4. 7	18 人	10,652 円	手染め製品（手ぬぐい等） 名刺印刷
竹の子	S63. 4. 1	20 人	10,747 円	ビーズ製品 手作り石鹸

ひめな	H8. 10. 1	16人	15,306円	縫製品 苔玉
ふれあいショップ あゆみ	H1. 10. 1	10人	21,048円	手作りパン ラスク各種
ふじひろみ	S53. 6. 1	11人	12,740円	コサージュ ぼかし・ぷくぷく
市民ふれあい バンク	S58. 8. 1	18人	18,840円	手作り石けん リサイクル品回収販売
鷹身工芸社	S59. 8. 1	19人	13,181円	花の寄せ植え 革製品・リメ缶
ふじばら作業所	H1. 4. 1	21人	12,515円	ふじさんキャンドル ぼかし
まつぼっくり	H13. 4. 1	15人	19,438円	手作り菓子各種 (クッキー等)

利用者に支払う授産工賃に関しては、9か所の就労継続支援B型事業所のうち、前年度の月平均工賃を上回った事業所は5か所、下回った事業所は4か所だった。

<生活介護事業所（1事業所）>

- ・在籍者数 22人 男性 14人 女性 8人
- ・平均年齢 約31歳 最年長 61歳 最年少 20歳

事業所名	開設年月日	在籍者数	主な自主製品等
オリーブの丘	R2. 4. 1	22人	てすきしおり ぼち袋

（２）職員研修

職員の資質向上を目的として、障害サービス室全体で、積極的に研修に取り組んできた。特に県知協主催の各種研修会には、各事業所から積極的に職員を参加させてきた。「虐待予防」に関しては、法人として虐待防止委員会を設置、介護サービス室職員も含め、定期的なチェック・ふりかえりを行ってきた。また、県の＜障害者虐待防止研修会＞に出席した職員による報告会を開催し、必要な情報を全職員で共有し、虐待予防とともに不適切な支援の根絶に努めてきた。

<全体研修>

- ① 安全運転技能研修（7月） 協力：中央自動車学校
- ② 富士特別支援学校高等部見学（10月） 協力：富士特別支援学校
- ③ 社協内他事業所の体験実習（11月～）
- ④ 先輩職員に聞く～「障害サービス事業所の昨日・今日・明日」（2月）
ゲスト：高橋愛子氏・石川恵氏
- ⑤ 虐待防止・権利擁護全体研修（3月）

（３）特定相談支援事業

障害者就労支援事業所等の利用者やその家族が、障害福祉サービスを適切に利用するため、サービス等利用計画の作成をはじめとした相談支援事業を実施した。

契約件数 231 件

内訳 社協就労継続 B 型事業所・生活介護事業所利用者 151 人
 その他（社協以外の事業所利用者・居宅介護事業所利用者等） 80 人

【社会福祉センターの運営】

富士市からの指定管理者として社会福祉センター（広見荘、田子浦荘、東部市民プラザ、鷹岡市民プラザ）の管理を行い、高齢者をはじめ市民の健康増進や憩いの場として提供した。

利用状況

項 目	広見荘	田子浦荘	東部市民 プラザ	鷹岡市民 プラザ	合 計	前 年
高 齢 者	23,142人	28,362人	26,364人	18,707人	96,575人	83,437人
障がい者	84人	209人	48人	63人	404人	354人
児 童	15人	309人	15人	0人	339人	97人
そ の 他	326人	1,120人	3,592人	8,154人	13,192人	10,242人
合 計	23,567人	30,000人	30,019人	26,924人	110,510人	94,130人
開 館 日 数	280日	280日	280日	280日		
1 日平均利用者数	84人	107人	107人	96人	394人	335人

【生きがいデイ・健康づくりデイサービス事業】

（１）生きがいデイサービス

在宅で閉じこもりがちな高齢者を対象に、自立生活の支援及び社会参加の促進を図ることを目的に生活指導・介護予防体操・レクリエーション等のサービスの提供を行った。

・実施場所 健康クラブ （広見荘 毎週水・金）
 あったかクラブ（鷹岡市民プラザ 毎週火・木）
 うららかクラブ（富士川地域福祉センター 毎週月～土）

・開所日数 健康クラブ 101日
 あったかクラブ 100日
 うららかクラブ 308日

・延利用者数	健康クラブ	1, 030人
	あったかクラブ	1, 209人
	うららかクラブ	1, 694人

(2) 健康づくりデイサービス

要支援状態等にある高齢者を対象として、自立生活の支援及び社会参加の促進を図ることを目的に、介護予防サービス計画または介護予防ケアマネジメントの内容に沿って、生活指導・介護予防体操・レクリエーション等のサービスの提供を行った。

・実施場所	健康クラブ	(広見荘 毎週水・金)
	あったかクラブ	(鷹岡市民プラザ 毎週火・木)
	うららかクラブ	(富士川地域福祉センター 毎週月～土)
・開所日数	健康クラブ	101日
	あったかクラブ	100日
	うららかクラブ	296日
・延利用者数	健康クラブ	296人
	あったかクラブ	83人
	うららかクラブ	905人

【その他の事業】

(1) 実習受入

社会福祉向上と福祉教育の一環として、学生等を対象に福祉実習の受入を行った。

・ソーシャルワーク実習受入数	4人
----------------	----

(2) 富士市介護保険事業者連絡協議会の支援

介護保険事業者が相互の連携と、サービスの総合的な質の向上を行うことを目的に各種研修会を実施し、その事務局役割を担っている。

(3) 職員育成計画運営委員会の開催

「だれもが住みなれた地域で、いつまでも安心して暮らすことのできる福祉のまちづくり」を担う職員を育成するために、職員から構成される運営委員会を開催し、OJTリーダー制度等の取組や改善策について検証すると共に、翌年度からの新たな職員育成計画の策定について協議した。

(4) 社協職員育成計画運営委員会の設置とOJTリーダー制度の実施

本会の基本理念を踏まえ、職員行動指針をバランスよく実践できる人材の育成を目的として、職員育成計画運営委員会を設置した上で委員会を3回開催。また、採用職員の早期戦力化の実現と、職員一人ひとりの育成力の向上を図ることを目的としたOJTリーダー制度を実施し、フォローアップ研修を3回行った。

(5) 被災地への職員派遣

被災地支援活動として、以下の通り職員派遣を行った。

①令和6年能登半島地震及びその後の豪雨災害

○災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（全国社協）からの要請

・珠洲市社会福祉協議会 10月18日～10月22日 1人

○静岡県社協から県内市町社協を対象にした要請

・能登町災害ボランティアセンター 5月11日～ 7月28日 3人

・珠洲市災害ボランティアセンター 11月 2日～11月 8日 1人

②令和6年6月18日豪雨（静岡県社協から県内市町社協を対象にした要請）

・沼津市災害ボランティアセンター 6月21日 2人

(6) BCP（事業継続計画）の検証

防災の日に合わせて職員の安否確認訓練を実施し、BCPにおける初動の対応を検証するとともに、各職員が安否確認システムを扱うことにより、意識の向上を図った。また、広域災害を想定し、各部門における課題の抽出を行った。

【社協会費・寄附金の募集】

(1) 社協会費

6月を社協会員募集月間に定め、各世帯より普通会費、篤志家より特別会費、福祉団体及び福祉施設・福祉事業所より団体施設会費のご協力をいただいた。

- ・協力団体（敬称略） 町内会（区長会）、民生委員児童委員協議会、他諸団体
- ・実施状況

区 分	金 額	実績額
普通会費	各世帯 300円	24,451,030円
特別会費	個人・企業・法人 1,000円以上	5,018,700円
団体施設会費	福祉施設・団体 1,000円以上	377,000円
合 計		29,846,730円

（前年同期 29,914,510円）